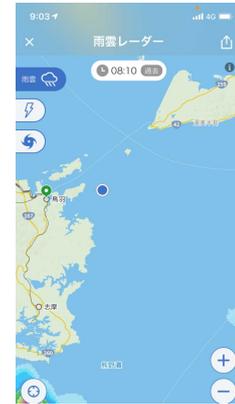


2021年9月25日(土) タテ釣り 強丸 ツレと
中潮:旧8/19 干潮 01:52(46cm) 満潮 08:09(198cm) 干潮 13:53(85cm) 鳥羽
自分 ハマチ 43cm 2尾
ツレ ハマチ 43cm 1尾 カサゴ 36cm 1尾

4時30分 現地着
5時30分 出船
8時09分 満潮 (鳥羽198cm)
11時30分 納竿 沖上がり



【料金】 乗り合い 10,000円 釣り座は抽選

【仕掛け】

仕掛け 船上にて購入¥500

ハヤブサ製 タテ釣りスペシャル アジ喰わせ胴打7号 6本鉤 2.45m



※フィッシング遊でスタッフに尋ねたところ、同じ製品の8号鉤がよいと進められたが、店になかったことから、仕掛けは船長から購入することに決めていた。また、ベイトがアジならスキンのついたサビキが良いとも言われた。なお、船長から購入したものは7号であった。店にも7号なら売っていたが、値段は店の方が高かった。

電動リール リーダー1ヒロ (1ヒロでよい) 竿受け

おもり 60号 (60・80号各4個: 船長から60号・80号を数個ずつ持参と指示)

※魚を絞めるためのゴム手袋 針を外すためのペンチ
活かしておいたベイトを生け簀からすくうためのタモ



【様子】

- 天気は曇り、風は少しあったが、白波は立っていなかった。小さかったうねりがだんだんと大きくなっていった。
- 午前5時30分出船であったことから、午前4時00分に酔い止めを飲んだ。うねりが高くなってきたころ(終了近くごろ)に気分が悪くなってきた。乗船90分前に酔い止めを飲むこと。
- 釣り座は抽選で5番くじだった。くじの番号で釣り座が決まっている。左舷ミヨシとミヨシ2番目に並んで座った。お客さんは9人で、ミヨシ2番目は胴に近く、船の揺れも小さい所となる。
- おもりは60号と指示があった。
- 船長からベイトの棚と水深のアナウンスがある。
「ベイトは20mから30mまで。水深40m」 「かけ上がりを流しているので根掛かりに気をつけて」

- 1投目から根掛かり。仕掛け、おもりをなくした。すぐに仕掛けを購入した。
- 水深が40mから20m位まで急に浅くなる。とにかく、根掛かりをしないように慎重な操作が必要だ。
- ベイトが掛からない。しかし、周りの人は釣果を上げている。ハマチである。
- ベイトが掛からない。アナウンスの棚と自分の電動リールの水深があっていないと思った。水深で+6mの違いがある。+6mでベイトを探った。
- ベイトが掛かった。仕掛けを落とすところ、すぐに底に着いた。
- 移動のアナウンスがあり仕掛けを回収したら、アジが掛かっていた。ベイトはアジだ。
- アナウンスでは、「ベイトは〇m～底まで」ということもあったが、ベイトが掛かるのは底付近であった。
- 後半、仕掛けを落とすと斜めに入っていく。おもりを80号に替えた。すぐに根掛かり。下2本がなくなった。おもりを60号に戻し、4本釣で釣ることにした。これにもベイトが掛かり、チャンスが何度かあった。
- 前半、船中でハマチがよく釣れていた。後半はベイトが掛かるがさっぱりダメであった。
- 前半は潮止まりまでだろうか。自分たちは前半にあまりベイトを掛けられなかった。



【ベイトを掛ける】

- HPでは、「指示棚の上まで一気に落とし、指示棚の上からはゆっくり落とす。指示棚の下まで来てもベイトが掛からなければ、指示棚の上まで巻き上げ、もう一度ゆっくり落とす。これを繰り返す。指示棚で竿を揺すったりして誘いをかけても1尾くらいしか掛からない。ベイトはたんさん掛けた方が有利であり、前述の釣り方が良い。」とあった。今回、この釣り方を繰り返したが、掛からなかった。
- 「指示棚の上から、3～5mずつ底まで落とす。底から誘いながら2～3mずつ巻いてくる。」
底まで落としたのは、下の棚のアナウンスが底より上であっても、底付近でベイトが掛かることが多かったからである。この方法でベイトが掛かった。ベイトがいるところで掛かってくるという感じである。
- 船長に尋ねたら、「ゆっくりワンピッチで巻き上げる」のも有効だと教えてもらった。
- 仕掛け回収時に元気なアジが掛かっていると‘かんこ’に活かしておき、そのアジを掛けて投入することもあった。
- ベイトを掛けるために、ワンパターンではダメである。掛からないなら、いろいろ試すべきだ。



【ベイトが掛かった】

- 船長に尋ねた。「ベイトが掛かったらどうするの？」
「底まで落とす。すぐに少し巻く。根掛かりしないように気をつける。おもりが底に着いたら、すぐに少し巻く。」
- いきなり竿が大きく曲がったので合わせた。ハマチだった。
- 少し大きな当たりがあり、少し巻いて見たら重みがあったので合わせた。ハマチだった。
- 少し大きな当たりがあり、少し巻いて見たら重みがなかったなので、そのまま、底から1mで待った。
- 少し大きな当たりが続いた。竿先が大きく曲がるまで待っていた。当たりがなくなった。

※釣行前に釣り日記を読んでおきたい。